



なしの木

夢と笑顔と「ありがとう」が
あふれる 長幡小学校
令和6年 4月30日
第3号

上里の子供たちを育てる合言葉：あいさつ、返事、靴そろえ、集中した清掃（膝つき清掃）

【校長賞】提出された冊数 0 冊 1冊以上提出した児童数： 0 名 4月23日現在

風薫る5月

木々の緑が美しく、色とりどりに咲く花が心を和ませてくれます。4月8日の始業式・入学式で1学期のスタートを切りましたが、もう4月が終わり、5月に入ります。子供たちは、新しいクラスにも慣れ、元気に遊び、落ち着いて学習等に取り組んでいます。欠席する子供が少なく、まずは順調なスタートが切れたものと思います。

5月の連休を前に、子供たちは心もワクワクしているのではないのでしょうか。交通事故等には十分気を付け、5月も元気いっぱい過ごしてほしいと願っています。



6つのふれあい体験活動

今年度も「6つのふれあい体験活動」を教育活動の柱として、知・徳・体のバランス

の取れた子供たちを育成してまいります。6つとは、「自然」「人」「本」「家族」「地域」「本物」のことをいいます。子供たちが体験活動をとおして、五感（視覚・聴覚・嗅覚・味覚・触覚）に直接働きかけ、知的な理解だけでなく、感性を高めてほしいと期待しているところです。また、体験活動は、身に付けた知識・技能を“生きて働く知恵”に変えるともいわれております。生活の中には、やってみないと分からないことやできないことがたくさんあると思います。やる前から、「できない、無理！」と諦めてしまったらもったいないと思います。できる・できないではなく、チャレンジする中で子供たちは、様々なものを自分から学んでいくのではないのでしょうか。

体験から学ぶ

子供が転ばないように目の前の石をどけてはいけません。転ぶ痛みも分からなければ上手な転び方も覚えられない。小さな時に何度も転ばせよう。大きくなってから上手に転べるようになる。

人は体験することで、多くの気づきを得ていくものだ。

親ができることは

痛みも含めて子供の体験を邪魔しない、否定しないこと。

かわいい子供に手を貸したいのにあえて貸さないことが

親にとっての新しい体験となる。

親としての体験が増えていくと

自分を育ててくれた

親の気持ちやっとなんぶん分かる。



【1年生を迎える会】4月17日（水）
代表委員や計画委員を中心に、1年生21名をあたたかく迎える会を開催することができました。笑顔があふれる1年生に！



【梨の受粉】4月17日（水）
全校児童が梨の栽培に取り組む、本校の特色ある教育活動の一つとなっています。今年の収穫が楽しみです！

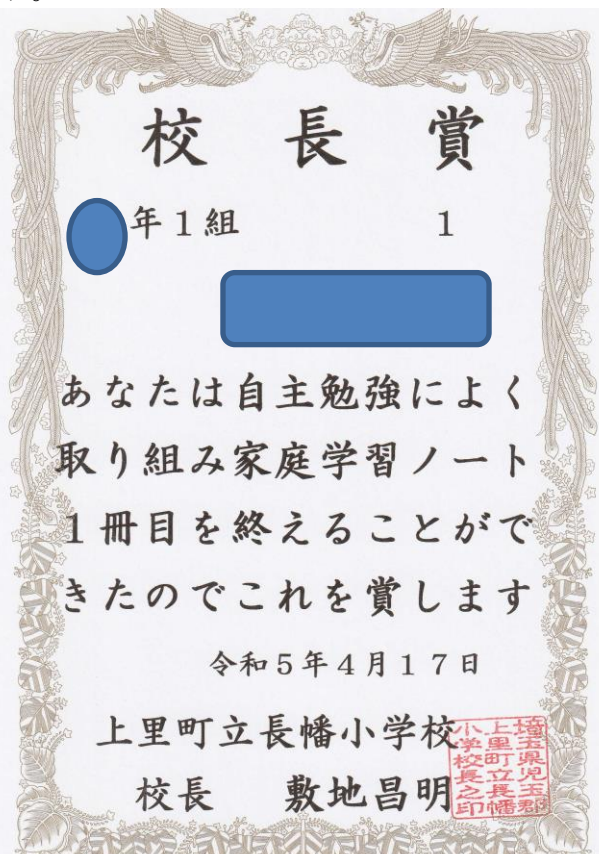
学力向上

今年度も上里町教育委員会の委嘱を受け、学力向上に取り組んでまいります。
学校研究課題を『一人一人の学びを保障した授業づくり～算数の基礎・基本の定着を目指して～』としました。年6回の校内授業研究会をとおして教職員の授業力を高め、子供たちの学力向上へつなげてまいります。

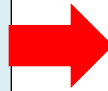
また、今年度も【校長賞】の取組を継続してまいりますので、御理解・御協力をよろしくお願い致します。



【離任式】4月19日（金）
出合いの喜びもあれば、別れの寂しさもある。そんな「人」とのふれあいも大切にしたいものです。離任式は、お世話になった感謝の気持ちを表現する場でもあります。



【令和5年度の実績】
○提出された冊数 284冊
○1冊以上提出した児童 83名



【令和6年度の目標】
○提出された冊数 300冊
○1冊以上提出した児童 100名



全国学力・学習状況調査に取り組む6年生 4月18日

